

令和元年度 第2回櫛引地域振興懇談会 (会議録・要旨)

○日 時：令和2年2月28日(金) 午後2時から午後4時20分まで

○会 場：櫛引生涯学習センター 講座室

○出席者：敬称略

(出席委員) 小林 幸一、小林 良市、井上 実、上野 由部、佐藤 治郎作
清和 ふみ子、今野 勝吉、鈴木 光秀、池田 肇、宮城 妙

(欠席委員) 木村 英俊、菅原 勝、武田 啓之、重松 美鈴、佐藤 正幸

(市側) 櫛引庁舎支所長 佐藤 浩

総務企画課長 菅原 正一、市民福祉課長 佐藤 美鈴、産業建設課長 高橋 修也

総務企画課課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査 遠藤 直樹

市民福祉課課長補佐 松田 重和、産業建設課課長補佐 斎藤 秀一郎

総務企画課総務企画専門員 長南 徹、総務企画課嘱託 五十嵐 潔

一次 第一

交代委員1名へ委嘱状交付

1 開 会

2 あいさつ

3 説明・協議

(1) 令和2年度櫛引庁舎重点施策について

(2) 地域まちづくり未来事業計画の見直しについて

(3) 地域振興にかかる意見交換

4 その他

5 閉 会

.....

— 委嘱状交付 —

総務企画課長

開会に先立ちまして、昨年12月1日に櫛引地区民生児童委員協議会の会長に井上実さんが就任され、当懇談会の委員にも就任いただくということで委嘱状を交付したいと思います。

—佐藤浩支所長から井上実さんに委嘱状を交付する。—

1 開 会

総務企画課長

それでは、ただ今から令和元年度第2回櫛引地域振興懇談会を開会いたします。

2 あいさつ

最初に櫛引地域振興懇談会の小林会長からご挨拶をいただきたいと思います。

会長

本日は、お忙しいところご出席をいただきましてありがとうございます。

令和元年度の第1回懇談会は、昨年8月8日に開催いたしました。その時には、令和元年度の重点施策と地域まちづくり未来事業計画について議論いただいたわけですが、その後の経過についても、皆さん興味を持たれているのではないかと思いますので会議の中でご発言いただければと思

います。

今日は「令和2年度櫛引庁舎重点施策について」と「地域まちづくり未来事業計画の見直しについて」を説明いただくわけですが、これらについても、委員の皆様が日頃考えておられることなど何なりとご発言いただければと思います。

限られた時間ではありますので、活発なご意見をいただきながら実りある会議にさせていただきま
すようお願い申し上げます。

総務企画課長

ありがとうございました。続きまして、櫛引庁舎佐藤支所長よりご挨拶申し上げます。

支所長

皆さん、こんにちは。本日は、公私ともにご多用のところ「第2回櫛引地域振興懇談会」にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から櫛引地域の振興のために、それぞれのお立場で大変なご尽力を
いただいておりますことに対しまして心から敬意と感謝を申し上げます。

只今は、新たに民生児童委員協議会の会長に就任されました井上実さんに懇談会委員をご委
嘱いたしましたのでよろしくお願いいたします。

さて、ご案内のとおり大きな社会問題になっております新型コロナウイルス感染症に関しま
しては、幸いにして山形県では感染者が出ていないところではございますが、連日の報道にあ
りますように、国からはイベント等の自粛要請や、昨日は学校の休校要請が行われるなど、不
安感の広がりとともに日常生活や経済活動にも影響が生じているところでございます。本日午
前中には、第2回本市対策本部会議が開かれまして、全ての学校を来週月曜日から臨時休校す
ることを決定いたしました。また、櫛引地域では、予防対策や相談窓口を掲載したチラシを各
区長を通じて全戸に配布をお願いしたところでございます。今後とも風評被害には十分に注意
しながらも、市民の健康を守ることを第一に国や県から示される情報を的確にお知らせするな
ど対応してまいりたいと思います。

続いて今年の記録的な暖冬についても、少し状況をお知らせしたいと思います。櫛引地域の
積雪については、毎日の降雪量を足していく形の降雪量累計では、昨年度は376cmでございま
したが今年度は本日現在、80%減の74cmでございます。また、除雪車の出動台数の比較では、
昨年度は延べ762台の出動がありましたが、今年度は本日まで73%減の206台に留まっており
ます。加えまして春先に行います排雪場所の雪山崩しの作業についても、ほぼ無い予定として
いるところでございます。

スキー場の営業については、今シーズンの営業期間として72日間を予定しておりましたが、
稼働できたのは17日間で前年度対比24%、約4分の1の営業日数に留まっているところ
でございまして、明後日の日曜日で今シーズンの営業を終えることとなります。

こうした経験したことのない暖冬が、春以降の水不足や農作物の生育異常に影響しないこと
を願っている所でございます。

前置きが長くなりましたが、令和2年度の本市一般会計の予算案が公表されましたが、総額
では740億8400万円と、今年度に続いて、2ヶ年連続の過去最高の予算額となっております。
これは、ごみ焼却施設や一般廃棄物処分場など大型投資事業などが主な要因となっているもの
であります。来週3日から始まる市議会で予算審議が行われることとなります。

本日の懇談会では、令和2年度に予定する重点施策について説明を申し上げますが、予算額
については市議会の議決を経ていないことから、お示ししない形となっておりますので、ご理
解を賜りたいと思います。

また、「櫛引地域まちづくり未来事業計画」につきましても、今年度の取り組み経過を反映

させ、一部見直しを行いながらローリングしておりまして、見直し部分を中心に説明をさせていただきます。委員の皆様からは、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

結びに、櫛引地域の振興、発展のために日頃お考えのことや地域活性化に向けたご提言なども合わせていただきながら、限られた時間ではありますが有意義な懇談会となりますようお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 説明・協議

(1) 令和2年度櫛引庁舎重点施策について

(2) 地域まちづくり未来事業計画の見直しについて

総務企画課長

それでは、協議に入らせていただきます。

ここからは、地域振興懇談会設置要綱第6条の規定によりまして小林会長から進めていただければと思います。

会長

それでは、暫時の間進めさせていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

A委員

急なことで申し訳ありませんが、先ほど支所長から新型コロナウイルスの対応策について説明がありました。その件でお聞きしたいことがあります。よろしいでしょうか。

対応の中身についてチラシで知らせるとの説明がありましたが、いつ配布になるのでしょうか。

支所長

チラシは、広報誌と一緒に配布するよう既に各区長さんに依頼しましたので、2～3日中には各家庭に届くのではと思います。

A委員

小中学校が一斉に休校するという情報も一緒でしょうか。

支所長

いえ、一般的な予防や具合が悪い時の連絡先などを記載したものです。

A委員

学校関係の対応については、子どもたちに今日連絡文書を持たせるとのことですが、例えば見守隊みたいに子供がいなくとも活動している人がいるわけです。そういう人たちには情報をどのようにして伝達するのですか。

支所長

見守隊のような案件につきましては、各学校から順次連絡されていることと思います。一般的な情報については市のホームページにも掲載していますし、学校の休校についても至急載せることとしています。学童保育所の対応についても、子どもたちの居場所を確保するという観点からホームページでお知らせすることとしています。今のところ、学童保育所の運営組織が19ありますが、午前の段階で16組織から夏休みと同じような対応で受け入れると返事をいただいているところで

す。残りの組織についても至急対応を確認しているところです。学童保育所が無い地域については、あるところで引き受けていただくような対応も検討しているところです。卒業式や修了式、通知表の配布方法などをどうするか様々な懸案事項があるわけですが、まず休校をすることとし、その後校長会にて対応していくとのこととあります。

A委員

そこで決まったことは、どのようにして伝えるのでしょうか。

支所長

見守隊については、学校から直接連絡がいくものと思いますが、なお確認いたします。いずれにしても間違いなく連絡がいくものと理解しています。

B委員

学童保育所について、19施設のうち16施設は受け入れることの確認が取れたとのことですが、受け入れ施設の具体的な名称など、庁舎レベルまで情報が共有できていないと不十分なのではないでしょうか。

支所長

鶴岡市コロナウイルス感染症対策本部会議では、全組織から了承が取れる見込だということと、ホームページでもお知らせすることとしています。

会長

このことについては、また何か新たな情報が入ってきたら会議の終わりにでも報告してもらおうこととして本題に戻りたいと思います。

では、「令和2年度櫛引庁舎重点施策について」と「地域まちづくり未来事業計画の見直しについて」の説明をお願いいたします。

—資料に基づき各担当課長が説明—

会長

ただいま（1）及び（2）について説明ありましたが、委員の皆さん何か質問、ご意見などありますか。

C委員

令和2年度櫛引庁舎重点施策資料5頁の「（9）若者グループによる活動への支援」について、これから様々な事業を行っていくにあたり、若者の意見が非常に重要になっていくのだろうと思います。若者がこの地域に住まなくなるようでは地域は発展していかないだろうし、若者たちのグループをどのように活用していくのか。6ページの（13）には研修会の開催やグループ討議の実施とありますが、そこで出された意見や研修で得られたものをどのように活用して、その後につなげていこうとするのかお聞かせください。

総務企画課長

独自に活動していただいています「こしゃってマルシェ」プロジェクトからは、年4回のイベントを開催していただき、大変な賑わいを創出していただいていますし、また活発な情報発信をいただいている状況あります。前回の懇談会では、D委員からは、まだまだプレーヤーが足りない

という発言もございました。資料「地域まちづくり未来事業計画」15頁に「くしびき若者未来創造事業」のイメージを載せてあります。櫛引地域にも「こしゃってプロジェクト」や団体としては「くしびギン!」とか「NO-SIDE」など、いろいろ活動をしている若者の団体がございます。それぞれの団体では、まだプレーヤーが足りていないという状況で、それぞれの団体をつなぐような仮称「くしびき若者未来創造委員会」のような形で、より若者を呼び込んでいくことができないかと検討しておりますし、生涯学習振興会からも「仕掛人養成講座」を実施していただいて、実践をする人たちの活動を通して人材育成につながっていくという部分もありますので、なんとかそれをつなげていくような取組ができないものかということで「くしびき若者未来創造事業」なども引き続き実施していきたいと考えているものです。委員の皆様からも何か良い方法があればご助言をいただきたいと思っております。

会長

C委員、よろしいでしょうか。

C委員

「こしゃってマルシェ」の活動に関しては、王祇会館でも活用させていただいて大変助かっていますが、それ以外に若者が活動しているところがあって、かつ櫛引との関わりのある若者の集合体の中で、何を語らせようとして、それを何に活用しようとしているのか。例えば山添高校の跡地利用計画も、今が大事なのか将来が大事なのか、どのような構想を持つか。土地、建物をうまく活用することによって、そこに人間が集まって来るのか来ないのか。どのような目的で構想を練っているのか。今、我々が話をしていることも、もっと若い世代がこの櫛引をどう捉えるのかということについても、今後間違いなく必要になってくると思います。こういったところが非常に薄いのではと感じています。例えば、若者たちの懇談会などあるならば、今日の懇談会のような内容も含めて話し合いをしていくとか、山添高校についても、もし君たちならどのように活用していくのか投げ掛けをしていくことにより、そこから何か新しいものが出てくれば吸い上げることも大事なのかなということと、未来志向ができていくのかなと思います。

荘銀タクトにしろ王祇会館にしろ、建物が建てられる前に、王祇会館ですとワークショップも行われましたが、そこでの結論が建物に反映されず使いづらい建物になってしまっています。荘銀タクトも同様です。今、荘銀タクト関係の文化芸術推進基本計画の策定に携わっていますが、何故あのような建物が建てられたのかについて、結果的に市民の声がほとんど入れなかった。そのような建物をその後どう活用していくのかは大変な作業です。そういったことも含めて、例えば山添高校であればどのように活用していくのかを、ある程度構想を持ちながらなおかつそれを色々な方々の意見をいただいた上で、その意見を尊重しながら進めていただければありがたいと思います。

総務企画課長

貴重なご意見、ありがとうございます。

会長

そのほか何かありませんか。

B委員

重点施策についても未来事業についても、櫛引だけで結論を得られるものではないと思います。鶴岡市として一つになっているわけで、全体として農業のこと、文化のこと、あと具体的にありますが山添高校のことなど、市全体として県有財産を引き受けて何かに活用するのかどうか、あるいは県から何か話があるのかどうかも含め、庁舎が直接の窓口にはなり得ないのではないのでしょうか。

市全体の中で櫛引庁舎が、あるいは地域住民が求めている施策を実現するためには、市全体の計画の中に位置づけることが必要になってくると思いますし、そういった進め方をすることが大事なのではないでしょうか。それから住民との関係についてですが、昔みたいに行政が何でもかんでも予算で引っ張っていくというようなことではないと思います。この前の防災関係の講演会でも、住民と行政の関係はパートナーみたいなもので、住民から主体的に動いてもらわないとうまくいかないのではないかと、というような話もありましたが、住民との関係もパートナー意識を持った施策の進め方を心がけてやらないと、計画が独りよがりなものになってしまうのではないかと思います。

それから、重点施策の中で例えば「地域を越えて連携する広域観光圏の形成」などは、朝日地域や黄金地区を含め本市南部地区の広域観光圏の形成を図るとありますが、これらの地域とどういったレベルでどのような協議がなされ、どこまで進んでいるのか心配しているところです。朝日地区や黄金地域が何もしないのであれば進まないわけですので、連携というものが重要になってくるのではないのでしょうか。

農免農道の整備についても、今は道路特定財源が一般財源化となって農免農道事業があるのか疑問に思ったのですが、県の農村整備事業に載っているのでしょうか。

支所長

農免農道については、県の計画に載っています。

B委員

市全体の計画にも載っていて、これが櫛引地区の重要項目であればいいのですが、揮発油税という道路特定財源の手法があるのか疑問に思いましたのでお聞きしました。

施策の市の中での位置づけ、それと住民とのパートナー的な位置づけを念頭に置いた事業の組み立てをされたらいいのではないのでしょうか。

それから、文言的なことを言えば、市長との対話集会は庁舎が直接開催しているように捉えられますが、これは区長会などの団体が開催しているのではないのでしょうか。敬老会についても交付金事業となって実行委員会組織が開催しているのですから、櫛引地域敬老会の開催という表現ですと、従前の通り行政が直接タッチしているかのような表現ですから、敬老事業への支援とか住民とのパートナーシップということであれば、そのような表現になるのではないのでしょうか。

支所長

C委員さんとB委員さんには、取り組みの薄いところをそれぞれご指摘いただいているものと理解をしています。

農免農道については鶴岡市の重要要望の中にも載っていて、県の計画にも掲載されています。実現するには非常に困難な道路と思いますが、今後も検討を継続し何とか完結したいというのが私共の考え方です。総合支庁に何度か足を運んでも前進できないという率直な課題があります。

庁舎の計画を、市全体の計画に位置付けるというのもおっしゃる通りであると思います。先ほどフルーツ振興に関するプロジェクトの説明は、見直しが行われたと申し上げましたが、公設公営で施設整備を図っていくという勢いで計画を立ち上げたわけですが、全市的な視点が必要だということで、ソフト事業を中心として、是非整備をしたいという人が出てくれば国と県の補助金を使って、更に市が未来事業で上乘せをすると、そういう形で進めることが全市的な視点で捉えられているのでございます。まずはソフト事業を立ち上げてそれを櫛引地域が先行して行うことで鶴岡市全体につなげていくような段取りになっています。地域を越えた広域の連携は、まだ具体的に描く地域で集まってワークショップもございませんので、取り組みが薄いところについては実施2年度目となりますけれども、その取り組みを進めていくということでございます。同じく若者に関する事業のありようについても、令和2年度は取り組みを強化しながら進めることにしていますので、よろ

しくお願いいたします。

会長

それでは、時間もだいぶ経過していますので「(3) 地域振興にかかる意見交換」に移らせていただきます。まず、前回の懇談会で出された意見などについて話題としたいと思います。

総務企画課長

前回、B委員から地域振興ビジョンが公開されていないというご指摘をいただきまして、コミュニティ推進課と協議し、現在は朝日の大網地区の地域振興ビジョン、藤島の藤島地区の地域振興ビジョンと櫛引地域の宝谷地区集落ビジョンを市ホームページに掲載しています。今後も地域ビジョンが策定されたら公開し情報共有を図っていくことについて、担当課とも確認が取れているところです。もう一つは、今もお話がありました住民とのパートナーシップについて、その根底にありますのが行政とパートナーシップを組めるような広域コミュニティ組織づくりということになるかとは思いますが、前回お話させていただいたとおり、櫛引地域では広域コミュニティは一つ、中学校区単位でいいという、過去の「櫛引地域広域コミュニティ組織の検討会」での結論と、その設置時期については期限を定めずに取り組んでいくこととされています。現在、広域コミュニティ組織を立ち上げないと、単位自治組織が立ち行かないという認識を持っている単位地区は少ないのではと思います。

ただ、宝谷地区なんかは大変な危機意識を持っていることでもございまして、地域おこし協力隊も入れて自治会総がかりで地域振興を図って行こうとしているわけですが、広域コミュニティの在り方について、この懇談会で検討していくべきとの話もありましたが、自治組織の代表は区長さんということもありますので、区長会で引き続き検討させていただきたいと思います。区長会においても、平成29年度には岩手県北上市の広域コミュニティ組織の視察研修を行ったり、コミュニティ推進課が主催する各種研修会などに参加し研修を積んでいる状況でございまして、引き続き区長会等でも話題にさせていただきたいと考えています。

会長

このことについては、区長会で話をしたわけではありませんが、私自身は広域コミュニティに向かわざるを得ないのではと思っています。何故かという、防災等との兼ね合いもあって広域に向かわないとまずいのではないかという気がします。ただ、広域コミュニティ組織が一つでいいのかは議論の余地があるところで、丁寧な議論をしなければならないテーマの一つではないかという認識を持っていますので、区長会の役員会等でも議論を進めて行ければと思っています。

会長

それでは、ここからは(1)から(3)まで全体を通して意見交換をしたいと思います。どなたか発言ございますか。

D委員

前回地域ビジョン策定のお話をお聞きして、地域ビジョンを策定したいなと私は思っていて、できれば様々な世代や地域の人が集まって外部のファシリテーターなどお呼びして行うのがいいのではないかと思います。

先ほど、これからの地域をどうしたらいいのか話題となりましたが、若者も含め市民レベルで考える必要があるのではと思っています。ビジョンを作って終わりではなく、それぞれが当事者として動いていくために、それが必要なのではないのでしょうか。色々進めたら素晴らしい事業がたくさんあるのですが、何で行うのか当事者レベルで共通のビジョンがあったほうが動きやすいので

はないかと思えます。

個人的に、櫛引中学校の生徒にアンケートを取って見たのですが、少なからず地域の活動に興味があるという若者はいます。中学生を含め40歳位までの層で動いている人たちは沢山いるはずで、これからの地域をどのようにしたいのか、皆の気持ちを醸成する場を作ったらいいのではないでしょうか。

総務企画課長

地域振興ビジョンを作る際、あるいは市全体でも地域振興計画を作るときは、若者の意見を聞く場として「まちづくり塾」にも意見をもらっています。市では引き続き「まちづくり塾」を運営していくことにしていますが、新年度からは地域ごとのグループをオープンにすることになります。

「くしびき若者未来創造事業」につきましては、具体的な事業の要望や希望をどんどんお寄せいただきたいと思います。

会長

これらのことに関係すると思われしますので、皆さんに配布しています「仕掛人要請講座」に関するチラシの説明をお願いしたいと思います。

E委員

皆さんに配布しています「仕掛人要請講座」について、少し説明させていただきます。この講座は県で6回ほど行っているのですが、東北芸術工科大学の教授でした宮本武典さんからお越しいただいて4回講座を行いました。その後、それぞれから企画を出してもらい実践してもらおうということ今年には行っています。県の生涯学習文化財団から補助をいただいているのですが、ねらいとしては、ものを考えてそれを形にすることを実際に行ってみようということです。提出された企画を櫛引地域生涯学習振興会の成田会長、最上町の総務課長であった方と参加者から選んでもらった結果が、お配りした「くしびきまるごとバスツアー」と「アヅバル+1」になります。仕掛人養成講座は3年計画で実施する予定で、先ほど話題になりましたビジョンを作るというよりは、ビジョンを作る人材の学ぶ場にしたいと思っています。

先ほどの、地域の色々な事を考えていくということについて、そのための訓練は必要で、物を作ることに對してもより良い方法を学ぶ場が必要と考えています。生涯学習センターとしては、そのような学ぶ場を作っていくのが仕事だと思いますし、このようなことで協力していきたいと考えています。

それから、彫刻家の富樫実先生の作品を巡ることも「くしびきまるごとバスツアー」に入っていますし、王祇会館から協力いただき「黒川能」を学ぶ機会も作りたいと考えています。去年の4月に綴れ織も展示いたしました。非常に精緻なものでニューヨークの国連本部にも展示されていたほどの作品なので、広く美術品としての価値を見たいと思います。そのきっかけになるような事をこのバスツアーでできたらと思います。その上で、興味のある方が地域の活動に向かえばいい感じの関係の作り方になるのではないのでしょうか。

人を集めるのは大変なことなので、無理して人を引っ張ってくるやり方ではなく、興味のある方たちに場所を提供する方がいいのではないかと思います。ものを作ることはクリエイティブなことなので能動的でなければできないことだと思いますので、言われて来るといのはどこか違うなと思います。従いまして、生涯学習センターとしては魅力的な講座を作っていかなければならないし、参加いただいた時には楽しんでいただけるようにしていかなければならないと思っています。それを地域の皆さんに伝えるような仕掛けを考えていかなければならないと思います。

会長

はい、ありがとうございます。他にご発言ある方いらっしゃいますか。

A委員

山添高校跡地の関係です。2年後には廃校になることが決まっていますが、学校施設は使わなくなれば老朽化が加速度的に進むのだらうと思います。山添高校の建っている場所は櫛引地域の公共施設の集中している区域の一面にあり、そこが何にも使われず建物もどんどん老朽化していくようでは全く情けない話だと思います。それで、この跡地利用については、検討委員会などを早速設置して検討していただきたいと思います。その時に資料に記載のある遊び場などで活用できないかなどというのも一つの方法かと思いますが、市全体を引き上げるような、例えば今先端研にからむサイエンスパークがどんどん拡張され事業展開がされているわけですが、あのようなきっかけを作ることができるような跡地利用の事業展開ができないものかと考えています。例えば、国家プロジェクトといわれているような、国のこれからの政策課題になっているような大きなものを、ここでその一端を担えるような仕組みを誘導できないか。例えば、一極集中が進んで都市部では都市としての課題が出てきています。一方で、地方では過疎化が進んで崩壊が進んでいるというようなことであるとか、あるいは安倍総理がおっしゃっているわけですが、国難とも言える人口減少にどのように対応するのか。人口が減少するということは担い手がどんどん少なくなるということです。しかし、生産力とか経済力は保持して世界に伍して戦っていかなければならないというようなこと。農業なども、その地域のプロジェクト、振興策などいろいろ出ていますが、担い手不足ということを一方で抱えていて、どうマッチングしていくかということもあるわけです。例えば、AIとかバイオテクノロジーを使った全く新しい構造転換をしなければいけない。既にそういったことが始まっているわけです。あるいは、環境問題、脱化石燃料、それからこれらが元となっている地球温暖化が進んでいるというようなこと。こういった国家プロジェクトとつながるような仕組みあるいは施設をここに持つてくることができないかと思うのです。そして検討委員会も、地域内だけで検討するのではなく全国から意見を募る、ベンチャー企業を立ち上げている若い人がたくさんいるわけで、そういう人たちが意見の公募に参加できるような仕組みを作って、どんどん提言を受け入れるなど、もっともっと大掛かりにかつ積極的に取り組みをしてもらいたいと考えます。

このままでは、山添高校は瓦礫の建物になってしまい、鶴岡市全体が何も手を打てなかったと後世の人たちから非難を受けることにしてはいけないなと思いますので、是非検討していただきたいと思います。

会長

A委員のお話は、壮大な構想で色々なご意見もあると思いますが、今ここで議論をしていくとなると時間の制約もありますので先に進みたいと思います。

ほかに皆さんから何かございませんか。

D委員

私は、デザイナーをやっていてブランディングの専門家でもありますので、少し気になったところをお話しさせていただきます。

フルーツの里ブランド化支援事業ということで、担い手確保とか園地継承とか所得の向上に関して取り組んでいくとありますが、その次のステップとしてブランディングなのかなと思っていたのですが、この意味合いについてお聞きしたいと思います。ブランド化というと、そのものの価値を上げるという意味合いで使われているのかなと捉えたのですが、その物の価値もそうなのですが、見た人にその価値を認知してもらえようという取り組みだと思いましたが、どう認知されたいのかとい

うことが少し不明なところがあるのではという気がします。例えば「フルーツの里」とあったり「フルーツタウン」とあったりしていますが、統一したらいいのではないかと思います。それと、「櫛引」というものが住所からは無くなりましたが、個人的には「櫛引」を使ったほうが周りの人から見て分かり易いと思っていて、実際使ったりしているのですが、「果物の里」などで検索しても辿り着けないのです。検索だけが全てではないと思いますがネーミングだとかどのように見てもらいたいのか、高級感なのか親しみ易さなのかそれとも全体のエリアなのか分からないのですが、地名だとか差別化できるような全体像があったほうがいいのではないのでしょうか。今のは、ぼやっとし過ぎて分かりにくいというか、例えば生産者にも使ってもらえるようなロゴがあったりとか、こういった露出も含めて取り組める余白があるのではと感じました。

ネットの「フルーツ日記」も読ませていただいています。農家の人に直接聞いて回られて詳しく載せていただいていると思いますが、流れていってしまう情報なので先ほど紙媒体でも作られているとのことですが、そこから実際購入だとか現地に行ってみるとかアクションに繋がるサイトのベースになるものとか、庄内の観光サイトにリンクするとかの工夫があるといいのではないのでしょうか。

産業建設課長

櫛引地域産業振興P J推進協議会のプロモーション委員会に関係するかと思います。ご意見を伝えますのでご助言をいただけるようお願いいたします。

会長

F委員、何かございませんか。

F委員

D委員さんから大変素晴らしいご助言をいただきました。2日前に産業振興プロジェクトの推進委員会に参加いたしました。地域として農家が残っていかなければ後継者が育たないと思いますので、いかに農家の所得を上げていくかがこれからの課題だと思いますし、少子化のなかで子どもたちが地域に定住できる仕組みを構築していただきたいと思います。県内でも庄内地域は、高校卒業後地元を離れる率が高いことでもありますので、地域に若者が定住できる、そして人が集わないと地域も潤っていかないわけですし、高齢化という大きな流れの中でも若者が安心して暮らしていけるまちづくりが一番ではないのでしょうか。若者が、櫛引に住みたい、櫛引で子育てしたいと思うような事業をお願いしたいと思います。

会長

ありがとうございました。G委員、何かございませんか。

G委員

デマンドバスについてですが、試験運行を予定するとのこと。どんなバスを使いどのように走るのか。今、酒田市ではデマンドバスが運行されているわけですが何か違いがあれば教えてください。よろしくお願いいたします。

総務企画課長

今、仮に料金が域内は500円、市中心部までは1,000円だとしたら利用するかとか、行先等についてのアンケートを公益大で分析しているところで、3月には、それを元に運行システムの提言を受け検討していくこととしています。試験運行の経費は2ヶ月弱程度ですので、時期を年度末に設定して、引き続き本運行に継続できないかと考えているところです。今まだコンサルに委託

している最中ですので具体的な部分をお示しできることはできませんが、来年度は、老人クラブ連合会の評議員会などで意見を聞く場を設けさせていただきたいと思います。運行する車についてはワゴン車、地区ごとに週2回程度と仮定していますが、公益大から提案を見ながら進めていきたいと思っています。

G委員

今あるバスを使用するという事ではないのですね。

総務企画課長

はい、庁舎のマイクロバスを使うわけではありません。それ専用のワゴン車を借りることを考えています。

B委員

進め方についてですが、デマンドバスは週2回ほどとおっしゃいましたが、公益大にコンサルを委託しているわけで、一定の結論ありきで委託しているのはどうなのかなと思います。G委員が質問したようなことを、計画の段階でデマンドバスを必要としているような層から事前に聞いて、コンサルの結果にも反映していくというのが本来のやり方ではないでしょうか。

藤島地域では、八栄島地区でワークショップを行い広範な人たちが参加し結論を導き出そうとしているようです。櫛引地域のデマンドバスについては、そのような手順もなく単に大学に委託してその結果をみて意見交換をするという方法もあるのかもしれませんが、前回そのノウハウを持つ研究機関に委託すると説明されていましたが、培ったノウハウが現実の櫛引の環境と一致するのかわかるといふようなことも含めて、もう少し濃い作業がないと果たして成功するのかなと思います。

実施したアンケートは、75歳以上の方抽出ですか。

総務企画課長

アンケートは70歳から84歳までの方全員を対象として実施しました。

B委員

現に運行しているところがあるわけですので、そういったところを見ながらの組み立てに少し不足しているのではないかと。実際に利用する人たちの声、アンケートとなると有効性ということもありますので、もう少し丁寧に行ったら良いのではないのでしょうか。

総務企画課長

デマンドバス導入に関する調査研究及び制度内容提案業務は、今年度で終わりということではなく新年度も引き続き行います。今年度も時間があれば集落に入って意見を聞く場を持ちたいということもありましたが、時期が押ししてしまったということもあり引き続き新年度行う予定です。広く集めた情報がないとなかなか進まないということについては、早い段階でアンケートを取れていれば中間集計をもとに直接意見を聞く場を設けられたかと思いますが、新年度に機会を設けて作業を進めてまいりたいと思います。

会長

多分、櫛引地域は容易ではないと思います。地域で路線が一つ、脇道に入っていきようなところが少ないところなら合意形成もできるかもしれませんが、域内全部を1台のバスで行うとなると容易ではないと思います。来年度もう少し検討いただくようよろしくお願いいたします。

会長

H委員、何かございませんか。

H委員

鶴岡市の中でも一部の地域の出先機関の中で、どのようなビジョンをつくるかといっても、本体側の方できちんとした考えがまとまっていない中で、こちらで構想を作りましょうといっても、構想はまとまりましたけれども、それ具体的にどうするのという話になるとなかなか進まないのではないのでしょうか。

民生児童委員協議会で東根市に視察に行ってきました。東根市は、つい最近まで人口が増えていた市で、その要因は工業団地もあり仙台にも近い、それと自衛隊の駐屯地があることです。働く場所があり自衛隊のように子どもたちも一緒に家族ともども転勤してくる。そういう要因だと思っています。東根市が素晴らしいと思ったのは、山添高校の跡地もそういったことでいいのかなと思いますが、子どもたちが遊ぶ場、それから大人、老人が遊ぶような広場とかを市役所の近くに全部集めて一つの建物としています。そこには保育所もありますし児童に関係する行政の部署も入っています。雨天でも中で遊ぶことができるようになっていて、他の市町村からもここに来て結構遊ばせていますし、これらの人に対してアドバイスしてくれる人も配置されています。

先ほどのお話の中でも、なかなか人が集まらない、一時的には盛り上がるけれども直ぐに沈む。山添高校の跡地も、学童保育所のようなある程度櫛引地域の子供たちがそこに集まっていくように何かをする。あそこに行くとか上から下まで子どもたちが楽しめるというような形も非常にいいのではないかと思います。東根市もどこかに委託をしてあのような施設を作ったのではないかと思いますので、向こうの話を聞きながら、市との関わりで櫛引の行いたいことを明確にし、ここに来れば子どもたちも遊べますよ。というようなところまでできてくると活性化につながるのではないのでしょうか。

会長

はい、ありがとうございました。最後にI委員、何かご意見ございませんか。

I委員

デマンドバスについてですが、先ほどB委員から発言あったことが気になっていまして、アンケートも大切だと思いますが、地元民を集めて意見を聞く場が必要だったのではないかと思います。お年寄りだけ対象にしたアンケートよりも若い人たちや家族の意見も参考にさせていただけたらと思います。

B委員

先ほど、広域コミュニティ組織について会長から大変前向きな考えを示してありがとうございました。ただ、庁舎の考え方は必ずしも地域は困っていないようなお話でしたが、何を指して困っていないのかも含めて、庁舎から例えば区長会、自公連などに色々データを資料提供いただき議論を深めるようにしてもらいたいと思います。前回の懇談会では、広域コミュニティに関する検討委員会において、自治公民館交付金二百数十万円が無くなるのではということとストップしたみたいですが、今、自治公民館がどんな活動をしていてそれが無くなると何が困るのか。大方の自治公民館はほとんど事業など行っていないのではないのでしょうか。従前は「櫛引公民館」があって自治公民館に対する支援の施策があったわけですが、今はそれが無く自治公民館が一人歩きしているわけで活動内容などどのようにになっているのか、その辺自治公民館活動補助金の取りまとめは総務企画課でしょうから、どのようなお金の使い方をして、どういった活動をしているのかも含めて調べていただき議論の場に情報を挙げていただきたい。併せて社協組織についてですが、鶴岡市の社

会福祉協議会は、学区社協とか地区社協などの組織との連携を取っていると思いますが、櫛引地域だけはそのような組織が無いわけです。羽黒、藤島、朝日は地区協議会というものがあって市社協との連携を取っているわけです。櫛引だけはそういった組織が無いわけで、地域福祉部の立ち上げの支援などは行っているようですが、更に進めて全地区の福祉部を含めてそういった組織を地区社協というかそういった組織的な活動に持っていけないのかと思います。あと一つ、体協組織についてですが、旧町村の体協組織は脆弱ではないかと思います。鶴岡地区はさっき言いました福祉と同じ学区体協、地区体協というものがあって集落、自治組織も体協の役員を兼ねながらコミュニティスポーツなど行っている組織もあるわけですが、旧町村の体協は組織的に弱いところがあります。こういった二つの組織の在り方などについても、併せて団体に働きかけを行っていくことが必要なのではないかと思います。

市民福祉課長

地区社協についてですが、一昨日、櫛引福祉センター主催の地域福祉委員会がありました。そこで、地区住民から地区社協を立ち上げたほうがいいのではないかとの声があることについて意見を伺いましたが、委員の中からはどなたからも賛成の意見はありませんでした。今、福祉部を各地区に作るようにとのことでしたが、その取りまとめは福祉センターで行っています。福祉センターは包括支援センターと同じ社会福祉協議会という組織に属していますので連携も良く、私共行政ともうまく連携しています。先ほど組織との連携というお話もありましたが、全地区で活動してくれています。地区社協を立ち上げるとすれば財源が必要で、一度下げた社協会費をまた値上げするのは住民が気持ちよく納めてくれるのだろうかという意見も出されています。今、櫛引はこのように行っているということと、全市的にも組織のスリム化のために地区社協を無くし自治振興会の中で対応している例が出てきています。

B委員

地域福祉委員会にお話しいただきましてありがとうございます。ただ、そういった地域にも市社協からは従前どおり活動補助金みたいなものが地区社協が無くなっても自治振興会のほうに交付されているのではないかと思います。

旧市のやりかたがそのような方向にあるとすれば、何も独立した櫛引地区社協といったような形にとらわれなくて、トータルな福祉部の集合体みたいな組織を考えて行けたらと思います。

それから、社協会費のことですが、一旦値下げしたものを再度値上げすることについて理解が得られるかとのことでしたが、何故負担が必要なのか十分説明していく必要があるのではと思います。

会長

時間も大分経過しています。最後に何かございますか。

C委員

先ほどのD委員のフルーツ関係のお話の中で、課長が答えた内容でD委員に投げ掛けてしまったようなところがありました。そこは是非、D委員が動きやすいように行政のほうで支援していく必要があるのではないのでしょうか。そうでないと動きづらいのではないかと感じました。我々、王祇会館もそうなのですが、だからこそ行政にお話をかけた上でやっているわけで、文化芸術推進基本計画の策定の関係で動いているのですが、全くその通りです。

話し合った中身が公開されて、そして公開されたものに対して高校生から大学生までにアンケートを取ったり、そういった活動を社会教育課が中心となって行っているのですが、拾い上げた意見をどのようにしていくかということ行政が力を貸していかないといけないのではないのでしょうか。

会長

「櫛引地域まちづくり未来事業」については、全市的な検討よりも櫛引で実施したいという事業は実行できるというのが未来事業ではなかったのか。ということを最後に申し上げて意見交換を終わりたいと思います。

皆さん、ご協力ありがとうございました。

5 閉 会

総務企画課長

小林会長、どうもありがとうございました。

次第に「その他」とありますが、生涯学習振興会から配布資料の説明をしたいとのことでしたが、途中で説明いただきましたので、これもちまして第2回櫛引地域振興懇談会を閉じたいと思います。

どうもありがとうございました。